

## ～かけがわ学力向上ものがたり 第4章～



掛川市では、子どもたちの「生きる力」（「確かな学力」「豊かな人間性」「たくましく生きるための健康や体力」までを含めて構成する）を育てることを目指し、学校と家庭や地域などが連携して、市民総ぐるみの教育を進めています。



また、「かけがわ学力向上ものがたり」を策定し、掛川ならではの特色を生かした教育を推進し、子どもたちの学力向上を図っています。さらに学校独自の特色ある「我が校のものがたり」を作成し、教育活動の充実に努めて参りました。

平成27年度、市民総ぐるみの教育をさらに発展させ、「かけがわ学力向上ものがたり」の家庭における取組、「家庭のものがたり」を作成し発行しましたが、本年度はその第2弾を作成しました。

みなさんの御家庭でのエピソードが、子どもとの関わりで悩みや迷いがある方、これから小学校や中学校に入学するお子さんのいる方などの家庭教育のヒントになれば幸いです。



茶のみやきんじろう

# 掛川市教育委員会



家庭のものがたり お茶の間エッセイ集

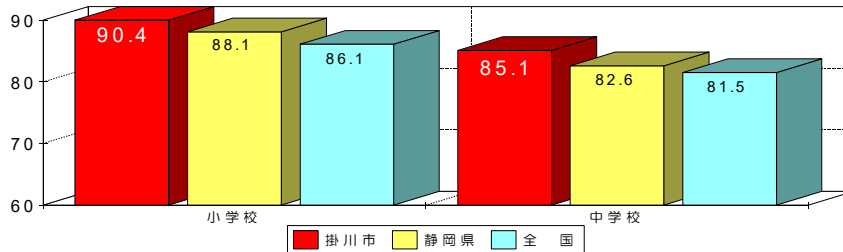
## 目次

はじめに	・・・1
お茶を通して	・・・2
部活・スポーツを通して	・・・3
コミュニケーション・関わり方	・・・5
本・読書を通して	・・・12
おじいさん・おばあさんとの関わり	・・・16
家族のルール	・・・18
天国の家族	・・・21
家族の大切な場所	・・・23
感謝を通して	・・・25
おわりに ~学力向上にむけて~	・・・27

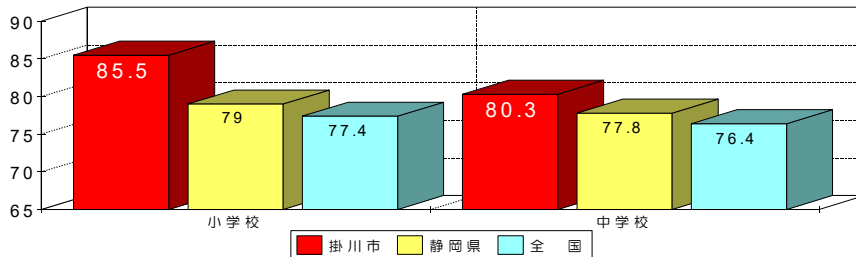
## はじめに

平成31年度全国学力・学習状況調査の児童質問紙において、全国や県と比べて肯定率が高かった項目です。

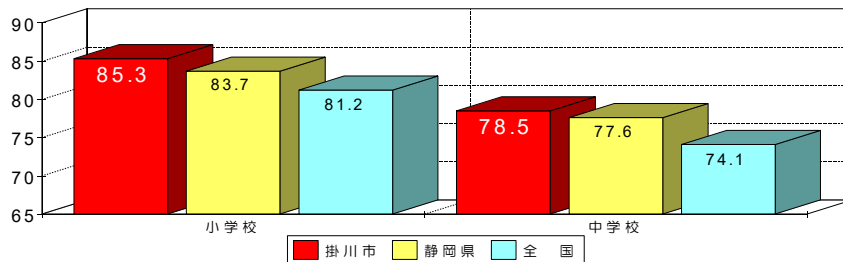
○先生はよい所を認めてくれますか。



○家の人と学校での出来事について話をしますか。



○自分には、よいところがあると思いますか。



掛川の子どもたちは、全国や県の結果と比較し、自己肯定感が高いことがわかります。自己肯定感の高さは「自信」につながり、学んだり挑戦したりする活力となります。これは、学校や家庭が子どもの話を聞き、認め、励ます場となっていることも大きな要因であると考えます。

これから登場する話には、「家庭」での温かな関わりがたくさん登場します。どうぞお楽しみください。

# お茶を通して

掛川市が世界に誇る「お茶」。  
「お茶の間宣言」にも登場しています。  
ほっこりするひとときを演出する「お茶」に関わるエピソードです。



## お茶と家族（日坂小学校保護者・卒業生）

小学校のPTA会合の中で、「家庭のものがたり」について説明と依頼がありました。夜、家族にその話をすると、中学生の娘が「私が書こうか?」と言って書き出したのが次のような文章でした。まだまだ子どもと思っていた娘が、こんなふうに家業のお茶づくりの仕事を感じ考えていてくれたことを改めて知り、親として胸が熱くなりました。

私の家は、お茶農家。私が生まれた時から今まで、いつも、常に、お茶があった。休みの日は、手伝いをし、お茶の間にも毎日お茶が出ていた。

お父さんは、もっとお茶を全国に広めるため、料理にもお茶を入れて試し、工場のブログにあげている。私たちもたくさん試食をした。

家族みんなで、いつものようにお茶料理のアイデアを考えている時だった。その時はやってきた。ブログにあげていた「お茶しゃぶしゃぶ」を、たまたまテレビ局のスタッフの方が見たそうで、取材の依頼が来た。そしてなんと全国放送のテレビに出ることができた。とても緊張して、がんばってコメントも言って、「お茶しゃぶしゃぶ」をPRした。

緊張はしたものの、私はとても嬉しかった。理由は、私たちの出演の前にお茶の魅力がたくさん紹介されたこと、私たちでお茶のおいしさやお茶料理の工夫を全国に広めることができたこと。これからも、たくさんの人に、お茶の魅力を伝えていきたいと思う。

「お茶」を通じた家族のつながりが垣間見えます。  
親の仕事観もしっかりと子どもに受けつがれています。  
掛川ならではの家族の関わりで素敵ですね。



# 部活・スポーツを通して

子どもが夢中になって取り組む部活やスポーツ。  
いつしかそれは家族みんなの共通の話題に……。  
部活やスポーツを通じた関わりエピソードです。



## 週末の楽しみ (東山口小学校保護者)

私には5人の子どもがいます。上の子は中学でバレー部を、2・3番目は野球スポーツ少年団に入って日々頑張っています。

週末は必ず、どちらかの応援に行きます。子どもたちの頑張る姿を応援し、悔しい思いをしたり、嬉しい思いをしたりと、忙しいです。

ここ最近では、暑く、熱中症にもなりかねない中、必死にプレーをする子供の姿に本当に感心します。試合が終わって、家庭で少し反省会をしますが、私はあまりほめる事はしません。心の中では、もちろん、「すごかった!!」「よかった!!」「頑張ったね!!」と思っていますが、もっともっと上を目指してほしいので、偉そうなことを言って、子どもたちに喝を入れます。

今は分かってもらえなくてもいい。でも、いつか、「一番の応援団は私なのだよ!!」と分かてもらえるといいなあ…と思いながら。

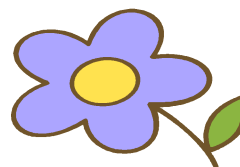
今は応援に励みます。



## 娘と母 (大浜中学校保護者)

中学3年生の娘と私(母)は仲良しなように思う。一時期、思い返せば、人並みの反抗期もあり、悩んだこともあったが、中学の部活動を機に、夜部や週末を一緒に過ごす時間がとても増えたことと共に、娘の剣道の応援をしていく中で絆ができたのではと思ってる。そんな娘も無事に小笠大会を終え、県大会出場が決まった。ともに歩くことができた部活ももうすぐ終わってしまうがその後も仲よし親子でいられたら…。

そんな風に思うこの頃である。



## 最後の夏、始まりの夏（和田岡小学校保護者）

2018年7月25日。娘の部活（バレーボール）の中学最後の大会。この日、中体連静岡県大会が行われた。

私たちはこの大会での全国大会出場を目指し、一家で2年半必死にがんばってきた。結果は静岡県大会1回戦敗退。

相手は新人戦東海大会で優勝した大井川。私たちは6月の県大会で優勝しており、この学年の県大会を1回ずつ制したチーム同士の対戦。県大会初戦にして優勝候補同士の大勝負だった。1セット目は、33対35で負け。2セット目は、25-22で勝ち。3セット目は16-25で負け。フルセットの末負けた。涙が止まらなかった。そして今からどんな顔で娘に会えばよいのかと・・・。

毎日午前5時50分に家を出て、家に帰り着くのは午後8時半。毎日の厳しい練習の中、課題をこなし、成績も落とすことなく、入学してからの2年半、部活と勉強を両立させ、前だけを見てひたすら努力を続けてきた。『努力は必ず報われる』と信じて。でも結果は県大会1回戦敗退。

試合後、娘に会った第一声は、娘から「お母さん、ごめんなさい。勝てなくてごめんなさい。今までいっぱい応援してもらったのにごめんなさい。」だった。辛かった。本当に辛かった。『努力は必ず報われる』という言葉が否定された瞬間だった。

これからこの辛さをどう乗り越えよう？娘をどうフォローしていこう？そればかり考えていると、隣にいた当時小5の息子が、「お母さんは僕が全国に連れていくから、泣かないで。」と。びっくりした。でも、今まで子どもと真正面から向き合い、子育てしてきた結果が、娘の「ごめんなさい。」、息子の「僕がやる。」という言葉を生み出したのだと思ったら、私の子育てに対する努力が報われたのだと思った。

娘も息子も主人も私も、同じ目標に向かって進んでいけるって、幸せなんだなと毎日感じている。平日は会社、休日は体育館、自分たちの時間なんてほとんど取れない毎日だけど、とても楽しい。それは、親の私たちも子どもたちも、自分のために、そしてお互いのために努力し続けているからだと思う。

今年6年生になった息子。5月の大会では惜しくも敗れて全国大会には出場できなかったけれど、10月の大会がラストチャンス。全国大会に出場できるように毎日がんばっている。

いつか全国の舞台へ。これからも我が家はこの夢に向かって走り続ける。

## 思いやりの心を育む（栄川中学校保護者）

我が家では、今年の4月から長男が中学生になり、野球部に入部しました。中学3年の長女はバレー部に入部しており、小学5年生の次女も4月から市の習い事でバレーボールを始めました。今までは、長女の予定だけに合わせればよい日々でしたが、そうも行かなくなりました。兄弟で予定が重なるようになり、毎回どの子を優先させればよいのか、どの子に我慢してもらうことになるのか……。悩みの日々です。私が、3人いればいいのに・・・と思うこともあります。

いつも、子どもたちに我慢させて悪いな。かわいそうだな。と思っていました。最近「あれっ？そうでもないのかな？」と思うこともあります。長女は、部活が終わった後「いいよ、野球が終わるまで一緒に待っているよ。」と言ってくれたり、長男は「帰りは、自分で歩いて帰れるから大丈夫だよ。」とか、次女は「私、一人で留守番できるから大丈夫だよ。」と、それぞれ思いやりの気持ちを表したりしてくれるようになりました。主人も、子どもの送迎をする私に「お願いね。」とか「ありがとう」などと言ってくれるようになり、家族で協力し合えることの喜びや嬉しさを実感しています。

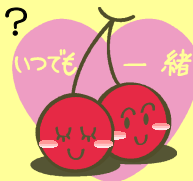
一人一人、自分の目標に向かって頑張ることで、まわりにも思いやりをもてるようになり、それぞれがしっかり成長してくれているのだなと嬉しく思っています。これからも、家族で助け合いながら、忙しいけれど充実した幸せな時間をおかみしめ、みんなで成長していけたらいいなと思っています。

部活やスポーツを通し、家族みんなの思いがつながっています。  
夢中になるからこそ味わえることですね。



## コミュニケーション・関わり方

子どもとのコミュニケーション、どのようにとっていますか？  
10人いれば10通りの方法があると思います。  
そんな関わり方に関するエピソードです。



### ハグの効果（西山口小学校保護者）

毎朝、娘を玄関先で送り出す時、「いってらっしゃい。」「気をつけてね。」「がんばってね。」等、声をかけながら娘を“ぎゅう”とハグするのを欠かさずしています。私が忘れそうになった時には、娘の方から「まだ、してないよ。」と催促されることもあります。

朝に親子ゲンカした時もありますが、送り出す時にこれをするといつも通りの「いってらっしゃい。」「いってきます。」と仲直りできます。娘がもう少し大きくなってハグをしたがらなくなったら、ハイタッチで送り出すのもいいかな・・・と成長する娘を想像するのも楽しみです。

ハグはわが家では、笑顔になれる魔法のコミュニケーションです。



### 我が家の遊び（第一小学校保護者）

小1の娘は、幼稚園の頃から今習っていることを家族（特にパパ）に教えてくれる。最近は日直ごっこ、体育係ごっこ、ピアノ教室ごっこを楽しんでいる。

娘が学校と同じように進めるので、私たちも教えてもらいながら、一緒にやってみる。「立って下さい。今から朝の会を始めます。」「ここで『はじめましょう。』って言って。」「そうじゃない。こうやって礼をして。」など細かく指導されるが、とても楽しい。「そんなに大きな声でやってるの？すごいね。」と、子の成長に驚いたり、「ねえね達はどうやってる？」と姉妹で教え合ったり、「パパー、今からピアノ教室やるよ。」と得意気な表情を見せたりと、この遊びだけで我が家はたくさんわかり合っている。



## 生まれてきてくれてありがとう（西山口小学校保護者）

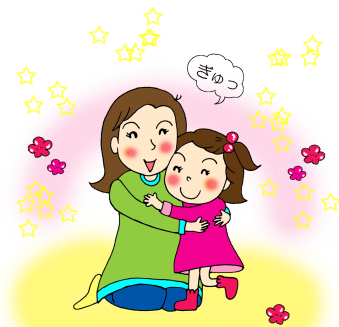
いつも賑やかな我が家は4人家族。その中でも母と長男のやりとりは毎日見物である。一番の山場は夕方から夜にかけての時間。「宿題終わったの?」「早くご飯食べて!」と母の先制攻撃。負けじと「おやつ食べてからするよ。」「まだ早いよ!」などと返してくる。そして、賑やかなまま、バタバタと就寝時間を迎える。

家族4人で過ごす毎日は、いつも笑顔ばかりではないけれど、だからこそ必ず行っていることがある。それは寝る前に「生まれてきてくれてありがとう。」と伝えること。笑った日、泣いた日、疲れた日、いろいろな日があるけれど、この言葉を伝えることで、お互い穏やかな気持ちでゆっくりと眠りにつくことができる。

いつまで隣で寝てくれるかわからないけれど、残された愛しい時間を大事に噛みしめながら、今日も大切に伝えていきたい。

## 家族ほっこり物語（中央小学校保護者）

5年生の息子は、男の子4人兄弟の末っ子です。末っ子というものは家族の中ではいつまでたっても幼い扱いをされるもので、3人のお兄ちゃんたちは疲れて帰ってくると、四男に抱き付き、ぬいぐるみにでもするかのようにすりすりしています。しかし、もう5年生。そろそろお兄さんになってきた四男は、上の子が抱き付きに来ると、「おい!!なんだよ!やめろー!」と暴れるようになってきました。しかし四男は抱き心地がよく、お兄ちゃんたち3人は暴れる四男をこりもせず毎日のようにすりすりしています。そんな中、母の特権か、私がすりすりしに行っても我慢してくれます(笑)。それどころか、ぴとっとくっついてみると、よしよしと撫でてくれます。「あー、幸せ!!」と私はしみじみ言って、しばらくほっこりしています。いつまで続くのでしょうか。このほっこりなひととき。幸せをかみしめ過ごす日々です。



©Tana

## みんなで楽しむ百人一首（西郷小学校児童）

私がお茶の間でしていることは、百人一首です。毎日やっています。なぜか  
というと、覚えられたら早めにとれて楽しいからです。

パパが仕事でいない時には、ママと私でいつもやっています。けれど、パパ  
が休みの時は3人でできるので、とても楽しいです。弟の赤ちゃんはいつもカ  
ルタを食べようとします。あぶないからやめてほしいです。強くなったらクラ  
スの友達みんなでやってみたいです。

## 子どもだって大変（土方小学校保護者）

「鬼ババ」って言われても仕方がないくらい、いつも怒り口調で口うるさい  
私。子どもと顔を合わせれば、「宿題終わったの？」「習い事の時間までにでき  
る？」「予定合わせは？」「洗い物出した？」と、思いついたらつい言ってしま  
う。

ある日、子どもが帰ってきて、「もう疲れたー。宿題するのがいやだー。」汗  
まみれで床に寝転がった。いつもなら、「汗まみれでそんな所に寝転がらない  
で！！」「早く宿題やって！！」と口げんかが始まるところを一呼吸置いて、「今  
日は暑かったもんね。大変だったね。」冷たい飲み物とゼリーを出して、「これ  
食べてから宿題やったら？」と。

すると素直に「うん。」と言ってペロッとたいらげ、すんな  
り宿題に取りかかることができた。学校から家まで4～50分。  
毎日の登下校だけでも疲れるよね。プールの授業もあるし、6  
年生にもなったら、友達関係で悩んだり、他学年との関わり方  
でも悩んだり・・・。子どもだって大変だよな。

子どもには、「相手の立場になって考えなさい。」とよく言っ  
てるけど、自分ができてなかったな。自分が子どもの頃言われ  
たくなかった事ばかり子どもたちに言ってしまうと気づき、もう少し子  
どもの気持ちに寄り添えるよう、努力していきたいです。



### 好きなものから興味を引き出す（大坂小学校保護者）

我が家の息子は、勉強嫌い、言ってもやらない、ゲームが大好き…という典型的な困ったちゃん坊やです。そんな子が教科書の内容に興味を見い出すはずもなく、それならばと、息子のフィールドに降りて勝負を仕掛けることに。

そのフィールドとはゲームです。モンスターハンター（通称モンハン）の3DS用の安かった中古ソフトを2本買い、一緒にプレイを始めました。

モンハンとは、モンスターを狩ったり鉱物や虫を採集したりして素材を集め、装備や武器を強化していくアクションゲームです。4人まで同時にプレイすることができます。息子は狙い通りハマり、よく一緒にプレイしました。そして時間さえあればモンハンの中のことを話題に頻繁に話すようになりました。ハマればハマるほどいろんな事を考え、興味をもつようになりました。

爬虫類に似たモンスターが多いため、爬虫類図鑑を見るようになり、名前や生態を覚えました。素材が出るための確率を理解しました。ある装備や武器を完成させるために必要なプロセスを順序だてて取り組むPDCAサイクルが身につきました。同時プレイにより役割と協力とマナーを覚えました。

実際、あるベンチャー企業では、社内で空き時間に社員同士がモンハンの協力プレイをするのを推奨しているという記事を目にしたことがあります。理由はモンハンが目標達成能力の向上に役立つからだとか。そんな息子の今年の夏休みの自由研究は、モンハンで興味をもった鉱物についての研究でした。

最初に二人でモンハンを始めてからもう4～5年経ちますが、今でも新しいシリーズをたまに一緒にプレイしたりしています。モンハンの世界では息子のほうが頼りになる親のような存在です（笑）。

今後、モンハンに出てくるような溪流や森林に行ってみたいと考えています。

### 原田地区夏祭りへの参加（原田小学校保護者）

カラオケ屋さんへ行ったのがきっかけで、カラオケが好きになりました。テレビでアニメの歌が流れると、ついつい歌っています。そんなある日、「原田地区夏祭りのカラオケ」の出場用紙が回覧板で回ってきました。テレビの歌と「原田ふくし館」にあるカラオケにある歌を探しました。

「サザエさん」があり、娘と私が歌ってみました。娘は思ったより「サザエさん」の歌が身に付いていて歌えそうです。それで娘に勇気を与えるために「地区夏祭りカラオケ」に出場を申し込みました。

これを機会に他の子どもたちが「ぼくも歌いたい」「私も歌いたい」という子が増えてほしいです。そして「原田」が今よりも元気になるといいですね。

## 我が家で実践してきたこと（桜が丘中学校保護者）

父親がアウトドア好きということもあり、中学入学までは登山、キャンプをしてきました。粟ヶ岳にはじまり、一部の百名山、富士山にも登りました。荷物は自分が持てる分だけ自分で準備し、持たせるようにしました。一度もあきらめることなく登頂でき、達成感を味わうことができた経験は、辛くても頑張り抜く姿勢につながっていると思います。

キャンプ場では、電気がない場所で携帯電話やタブレットからも離れて、読書やボードゲームをして過ごしました。登山やキャンプでのマナーも身につけ、集団行動にも生かしていると思います。テニスやゴルフの打ち直し等、家族で楽しめるスポーツもしています。

私にとっては一度きりの子育てですので、今しかない一日一日、どんなに忙しくてもできるだけ娘のために時間を作るようにしています。

生まれてからずっと、今でも、娘に「大切な存在」だということを伝え続けています。

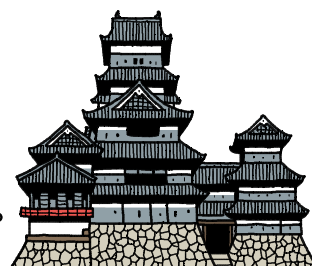
## 家族旅行と史跡めぐり、歴史を肌で感じる旅（北中学校保護者）

大河ドラマ『真田丸』を家族で見たことがきっかけで、夏休みの自由研究のテーマは、史跡めぐりとなりました。有名な戦国武将ゆかりの地をめぐることが、夏休みの家族旅行となりました。

大阪、京都、滋賀、和歌山、岐阜、長野、山梨、愛知、静岡、相当な移動距離と時間を家族で共有しました。中でも、もっとも印象に残っているのは、真田幸村で有名な真田一族の足跡を追った旅。

長野県上田城、真田家居住跡から、関ヶ原古戦場、大阪城、真田丸跡地、和歌山県九度山まで、真田幸村の生涯を感じる旅でした。ドラマで見た光景が実際の場所ではよみがえり、歴史を肌で感じ、歴史を学ぶことができました。教科書では経験することができない、時間の経過や、実在した人物の移動距離などを感じる事ができ、歴史のスケールの大きさを知ることができました。それと同時に、生命の尊さ、御先祖様の有り難さを知ることができ、命の勉強にもなりました。

これからも家族で史跡めぐりを楽しみたいと思います。



### コミュニケーションの時間（桜木小学校保護者）

うちには中学2年、小学5年の息子、娘がいます。現在2人とも陸上をやっています。学校から帰宅し宿題をして、夕飯を食べてから陸上へ行って練習をするという生活を、もう数年続けています。学年が上がるにつれて学校からの帰宅も遅くなり、宿題の量も内容も増え、宿題を一緒にやるようにしています。その時に学校であった出来事を話します。そして私も会社であった事を話し、コミュニケーションにしています。中学生の内容は私が教えてもらうことも多々あり、子どもたちの成長を強く感じられます。この時間がとても穏やかな時間です。

### 子どもとのコミュニケーション（原野谷中学校保護者）

私には中学生と小学生の2人の息子がいます。私の職場が自宅から遠いこと、兄の部活動や塾の事もあり、平日は家族みんなが集まる時間がなかなかありません。休みの日は二人ともゲームばかりしているので（たまには勉強してほしいのですが…）家族みんなが集まる時間は週末の夕食ぐらいです。

なので食事をする時は、テレビを見ないでコミュニケーションを取るよう心がけてきました。お互いの距離感を縮めるため、程よくいじり合いをしてきた事もあり、子どもの方から些細な出来事も話してくれます。

これからも疎遠にならないように、忙しくてもコミュニケーションを取るようしていきたいと思っています。

### 我が家の様子（栄川中学校保護者）

歴史好きな息子。なかでも、戦国時代が好きなため、古戦場跡、城（跡）など、これまで一緒に様々な場所に出掛けました。年齢が上がるにつれて、だんだんと家族で出掛けることを嫌がるようになり、親としては寂しい限りですが、テレビ番組を一緒に見ている時、歴史の問題が出ると、こちらも驚くような豆知識を披露してくれ、これまでとはまた違った楽しい時間を過ごせています。以前と比べると口数は減ってきましたが、これからも息子の興味のあることで関わっていかれたらと思っています。

## 大切な時間（大浜中学校保護者）

「ちょっと見て。」ジャンプで天井の梁の辺り手が届く息子。私も昔は届いたが今は…届かない。「背比べするか」と言われ鏡の前。日々背が伸び今ではつま先立ちしてもかなわない。大きくなったと実感。力も強くなり、腕相撲やっても勝てない。最初、旦那と勝負させて息子が疲れたところで勝負。なかなか良い感じだけどやっぱり負けたり。一緒にテレビを見ながらクイズの問題を解いたり、感想を考えてったりする息子に対し、「すごい。」「本当よく知ってるねえ。」「どこで覚えた？」等連発の私。答えが間違ってもその言葉が出るのがすごい。いろいろな事を覚えてるんだなぁと感心。

会話している時、ニコニコ顔で話してくる息子を見ると、私まで笑顔に。時にはイヤだった事も話してくれますが詳しくは…。でも姉兄に言うので上2人から私の耳へ。本当に困ったりしていない限り知らないフリ。

会話の中で特に気をつけているのが『学校、先生、友達の悪口』『出来ない事をせめたり、馬鹿にしたりすること』は言わないこと。そのかわり「ありがとう。」「すごいじゃん。」「良い子だねえ。」を。時々「その位できるし!!」「すぐホメる。」と言われてしまうけど、今日も明日も明後日もきっと言ってる私。

毎日夕食後のこの時間、ワイワイ、ガヤガヤ、楽しくてたくさん笑ってお話して子どもとふれあえる私の大好きな時間。子どもたちに感謝です。

## 連休の楽しみ方（横須賀小学校保護者）

連休の時はおじさんが千葉県成田市から遊びに来てくれて、4日間泊まって行ってくれました。毎年、大東温泉やポーリングに連れて行って来て楽しく過ごしています。まだかな、まだかなと、おじさんが来るのを楽しみにする子供のわくわくする姿も嬉しいです。

趣味、テレビ、旅行、遊び・・・。  
様々なツールを活用しコミュニケーションを図っていますね。  
そしてそれが子供の成長へとつながっていくのですね。



# 本（読書）を通して

身近に本はありますか？よく本を読みますか？  
知識を与え、思考を育み、心を豊かにします。  
本（読書）にまつわるエピソードです。



## 泣いたお母さん（大淵小学校保護者）

図書館に行った時の話です。タイトルと表紙の絵にインパクトがあり、どんな話だろう？と、手に取りました。

『小学生のボクは、鬼のようなお母さんにナスビを売らされました。』

原田剛・文 筒井則行・絵

とっても優しくお母さんが、突然鬼のようになりました。「どうして、ボクは独りでナスビを売らないといけないの？」

今から三十年以上も昔…実際にあったお話。

図書館の絵本コーナーで、一人読んでいたら、涙が…ここで泣くのはまずいと思い、本を借りました。家族に聞いて欲しくて「ちょっと読むから！」と、読み始めたのは良いのですが、やっぱり涙が…。

子どもには「お母さんが泣いている」と、笑われながらも、なんとか最後まで読みました。泣いている私が面白かったようで、子どもにお話が届いたかは謎です。親になって約12年。ボクではなくお母さんの目線で読んでいました。

私は、子どもの為にこのお母さんのような鬼になれるのだろうか？鬼にはなれそうもないけれど、子どもが生きていくのに困らないように、静かに見守る親にならなければと思いました。



### 寝る前の読み聞かせ（上内田小学校保護者）

共働きで、家に帰っても勉強、食事、お風呂とせわしない毎日です。子どもとゆっくりできるのは、布団に入った時なので、子どもの好きな絵本をもってきてもらって、寝る前に読みきかせています。子どもとふれあえる大切な時間であり、落ち着いて話のできる、私の好きな時間です。

上の子は小学校1年生。下の子は保育園の年少。どちらも年が違い性別も違うので、好きな本も違います。保育園で購入した本では、上の女の子は『てじな』や『てじなのやりかた』が好きで、下の男の子は『はたらくくるま』『ブルドーザー』が好きなようです。対象年齢が違って、2人とも絵本について話したり、笑ったりして、最後まで聞いてくれます。

本屋さんでみつけた、『100階だてのいえ』シリーズ、『バムとケロ』シリーズは2人とも楽しいようで、あきずに何度も「読んで。」と持って来ます。皆で横になり右側が息子、左側が娘。決まった位置が落ちつくようで、毎日の我が家の習慣です。

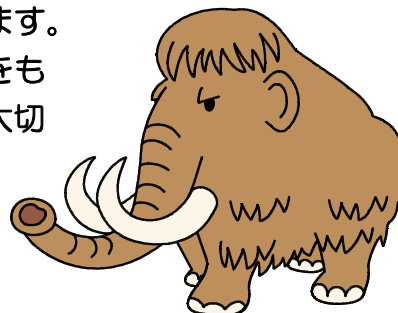
続けていきたいなあと思います。

### 恐竜が家族全員の話（第一小学校保護者）

恐竜が大好きな息子は、図鑑が愛読書です。「これなんて書いてあるの？」と毎日恐竜の名前を聞かれ、伝えているうちに、気がつくとカタカナを自分で読めるようになりました。そしてその恐竜の特徴や何を食べるのかも自分で調べようになりました。

恐竜の絵もとっても上手になり、それを見ていた弟もいつの間にか恐竜の名前を覚えていました。家族での会話も恐竜の話が多く、旅行なども恐竜が見られる所を夫婦で探すのが楽しみになっています。福井の恐竜博物館で発掘体験を経験した事がよい思い出になっているようで、おじいちゃんと近所の地層で貝や魚の骨の化石を掘って、宝物にしています。

恐竜好きから生き物の進化や動物にも興味をもった息子。そんな息子の探究心を家族全員で大切にしていきたいです。





### 5分の大切な時（城北小学校保護者）

読書の時間を至福の時としている長男。0歳の頃から、読める時に毎日2冊自分で本を選び、夜眠る前の母の読み聞かせを今でも続けています。

父も時々読みますが、短い本ばかり選びます。今では少し長い本も読み聞かせできるようになり、子どもに感謝です。両親疲れて読めない日は、兄から妹へ、またある時は、妹から兄へ、読み聞かせをして、2人で眠りにつきます。1人で読めるようになってからは、気がつけば、本の世界へ入っている姿を毎日見るようになり、お気に入りの本に囲まれて、幸せそうに本を選んでます。

読み聞かせはいつまで続くか分からないけれど、親にとってもゆったりと子どもたちと絵本の世界に入るこの5分は、1日の中でとてもとても大切な時となっています。



### 寝る前の絵本習慣（第二小学校保護者）

我が家では寝る前に、2冊絵本を読みます。絵本習慣は、子どもが幼稚園の頃から毎日読んでいくうちに、子どもの寝つきがよくなっていきました。そして、子どもとの会話も、本を通して増えていったような気がします。

今では、毎週子どもと好きな絵本を図書館に借りに行き、とても楽しいコミュニケーションの1つとなりました。ゲームやビデオが大好きな息子、少しでも違う楽しみを親子で見つけていく楽しさを教えてもらった絵本でした。

### 家庭読書の時間（倉真小学校）

『2年生の娘と母とで交代読みをしましたが、夢中になって読んでいるうちに娘が何ページも続けて読み始めたので聞いていました。』『時期に合わせて春～初夏に咲く花のページを中心に読みました。アブラナ、ナズナ、キュウリグサ、ホトケノザ、ヒメオドリコソウ、カタバミ、シロツメクサ、アカツメクサなどについて学びました。』『「からっぽになった どうぶつえん」という本を読みました。環境汚染のことが動物目線で書かれた本です。絵本の割には内容が少し難しかったので読んだ後、作者が言いたかったことを説明したら理解したようです。』月に一度、期間を設けて行う家庭読書。家族でなかよく読書カードを活用し、充実しています。

## 文字に親しむ環境づくり（大須賀中学校保護者）

若かった頃はあまり読書に親しんでこなかったのですが、今になって本のおもしろさや読書の楽しさがわかるようになりました。

きっかけは、知り合いに勧められて定期購読を始めた、中日新聞の子どもウィークリー新聞でした。最初は孫のために購入したのですが、目を通してみると大変読みやすく、またおもしろいのです。そのうちに、文字を読むことに慣れたのか、芥川龍之介や夏目漱石の本を読んでみたくなったのです。すると、読むたびに小説の世界に引き込まれ、本を読むことが楽しくなっていました。

この経験から、孫と一緒に本屋や図書館に行っては本を手に取り、読書に親しむようになりました。気がつくと、孫も自然と新聞や本を手に取り、文字に親しむようになっていました。

「読書をしなさい。」と言葉で言うよりも、自ら文字を読むことを楽しむ姿を示していくことが大事なのかな、と感じています。

本を通して関わりを深める。  
本を通して自分を見つめ直す。  
本を通して成長をする・・・。  
本を通じた関わりによる成長がみられますね。  
親子で読書に親しんでみませんか？



# おじいさん、おばあさんとの関わり

人生の大先輩であるおじいさん、おばあさん。一緒にいるだけで、話をするだけで学ぶことがたくさんあります。そんなおじいさん、おばあさんとの関わりのエピソードです。



## 大切な場所（城北小学校保護者）

我が家の週末は、おじいちゃん、おばあちゃんの家で過ごします。夕飯をみんなで囲み、1週間の学校の様子を祖父母に話します。おばあちゃんが作ってくれる夕飯は、いつもカレーです。でも、季節によって、お野菜が変わります。お野菜はおばあちゃんが、お米はおじいちゃんが育てたものをいただきます。時には、畑の手伝いにも行きます。同じカレーだけれど、カレーやサラダを食べるだけで、四季を感じられます。父の実家では、父はゆっくり、母も週末は夕飯を作らず、1週間の充電をさせてもらえて、みんな笑顔で顔を合わせて、週末を終えることができます。

みんな、ずっと健康でいられますようにと、家族そろって「いただきます。」と手を合わせられる、大切な場所です。

## 将棋の力（第一小学校保護者）

保育園の頃、祖父にはさみ将棋を教えてもらったのをきっかけに、将棋が好きになった息子。今では親子三世代で対戦できるようになりました。息子が詰め将棋の問題を解いているのを見て、毎週、祖父が静岡新聞に載っている将棋コーナーの記事をとっておいてくれます。週末、祖父の家に遊びに行くと、祖父、父、子と三人で問題を解いている姿がとてもほほえましいです。

タブレットや携帯電話でも将棋のゲームができますが、実際に将棋盤に向かって勝負することで、考える力、集中力、相手への礼儀作法なども学ぶことができます。息子の「じいちゃん、勝負しよう。」の誘いに祖父もうれしそうに答えてくれます。今では将棋は、私たち家族をつなぐ大切なものとなっています。

### 触れる思い（曾我小学校保護者）

孫「いってきまーす！」祖母「いってらっしゃい。無事のお帰りを。」そう言って、祖母が孫を抱きしめる。我が家の平日の朝の風景です。必ず声をかけるといふ方は多いと思いますが、抱きしめて送り出す方はあまりいないのではないかと思います。日々、胸を締めつけられるような事件・事故のニュースを耳にします。我が家の子どもたちも、必ず無事に帰って来られるとは限らない。縁起でもないかもしれないけれど、祈るような、願うような、そんな気持ちで、祖母は毎朝抱きしめて送り出してくれているようです。

祖母におとなしく抱きしめられてから登校する彼らを見ていると、想いは伝わっているだろう。そして、大人になっても思い出すだろうと感じます。

### 祖母想い（中小学校保護者）

花が大好きな祖母。祖母は、庭で花を育てていて、毎日、水かけ、草取りをしている。祖母が旅行に出かける時、水かけを頼まれた子ども。私は、水かけをすることを忘れていたけれど、子どもは忘れずに「花に水あげなきゃ。」と言い、小さいじょうろに水を入れてあげていた。

また、外出先で花屋に寄ると、必ず「ばあばにこの花（自分の好きな花を選んで）あげたい。ばあば喜ぶに。」とうれしそうな顔をしている。私は仕事をしていていつも祖母に見てもらうことが多い。私が祖母に花をあげたほうがいいのかもわからないけれど…。

自分のことばかり考えている自分に気づかされます。

### お見舞い（原谷小学校保護者）

家族で大きいおばあちゃんの様子を見に行ったとき、子どもたちの名前を大きな声で何回も言って、「油ちょうだい。」と同じことを言うおばあちゃんに、娘が笑いながら優しく対応している姿を見て、思いやりのある人間に育っているなと感じました。これからも顔を見に行き行ってあげたいと思いました。「長生きしてね！」と心の中で思いました。

お孫さんのことを心から大切に想う、温かなまなざしが目に浮かびます。おじいさん、おばあさんが、家族を温かく包み込んでくれているようです。

たくさんたくさん、関わっていききたいですね。



# 家族のルールとの関わり

各家庭、各家族にはそれぞれのルールがあると思います。その家族の文化であり、やがて子どももそれを受けつぎます。そんな家族のルールに関わるエピソードです。



## 我が家の家族内契約書（第一小学校保護者）

どの家庭にも家庭内の「ルール」というものがあると思います。我が家の息子たちはサッカーをしています。楽しく元気に好きなことに取り組む姿は、私たち両親の生きがいにもなります。

我が家には、家族の契約があります。もちろん、万が一、その契約を破っても罰はありません。しかしそれは、子どもと私たちの契約です。例えば「LINEなどの携帯の使い方」や「ゲームの時間」などです。LINEを始めることになった数年前、ゲームを買った数年前、親子で納得のいくようなルールづくり、「契約書」を交わしました。子どもたちは、真剣に考え、しっかりと守ります。そのおかげで宿題にも意欲的に取り組みます。お互いにストレスはありません。

サッカーを楽しく続ける、LINEやゲームを適度に楽しむ、宿題をしっかりとやる。それら全てが約束なのです。最初が肝心。今日も気持ちのいい親子関係が続いています。



## 家族で考える命の大切さ（中央小学校保護者）

1年生の時、子どもが猫を飼いたいと言い出した。

動物病院から保護猫を譲り受けた。捨てられ保護された状況、守ること等、子と共に細かな指導を受けた。母親は、犬、猫、鳥と共に、小さい時から育ち、知識はプロ級である。しかし、あまり口出しをしないで、子にある程度任せてみた。

目の前の命。餌を与えないとどうなる？病気になったら？清潔にしなかったら？抱っこをしたり構わなかったりしたら？

全て経験する先に見えるもの。それは命の大切さである。豊かな経験が、いじめや虐待の防止につながる。

それから4年が経つ。我が家は命に対する思いやり家族でありたい。

## 家族であるために（原谷小学校保護者）

保育園の頃、母と息子の二人暮らしでした。平成31年3月末、母の実家へ引っ越しをし、4人家族の生活が始まりました。息子は環境が変わったことで不安な部分があったかと思います。自分の中で納得するまで何度も何度も質問をし、勝手にわかるようになれば行動に移すということを繰り返していました。しかし、生活が始まり、息子が唯一何も聞かず、進んで行っていることがあります。しれは食事の後の食器を片付けることです。ふとした時に、食器を片付けていることをさりげなく聞いたら、「ばあばがご飯を作ってくれてるんだから、俺はこれぐらいやりますよ。」と、はにかんでくねくねしながら答えました。

引っ越すことにも嫌がることもなく応じてくれた息子、自分の中で新しい家族での役割を考えて行動してくれていたんだと気付かせてもらいました。家族であるために、私も家族に対して、もう一度気持ちを入れて生活していこうと感じることができました。



## 「やらせたい」ではなく「やりたい」を優先（佐束小学校保護者）

我が家ならではの子育てとして、「やらせたい」ではなく、「やりたい」を優先していることがあります。先日、次女が学童で裁縫を教わったことをきっかけに、「ぬいぐるみに着せる服をつくりたい。」と言い出しました。針の扱いだけは約束をして、使っていい布や道具を出してあげました。すると自分でデザインを考え、布を縫い合わせ、レースまでつけていました。できあがった服をぬいぐるみに着せ、満面の笑みで遊ぶ姿を見ると、飽きっぽい娘も好きなことには夢中になれるんだなと、次女の長所を見つけるきっかけになりました。

今後も娘の「やりたい」に応えられるよう、私自身の幅を広げ、娘たちが様々な世界に挑戦したいと思える環境をつくっていきたいと思います。

## 夜8時（桜木小学校保護者）

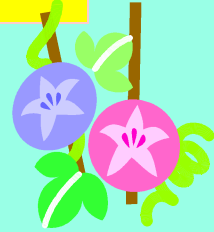
小さな頃から、夜8時にはリビングが真っ暗になる我が家。私が時計を見忘れていて、その日のタイムキーパーが、「もう8時だよー。寝るよー。」と号令。小さな頃からずっと同じです。「なぜ8時なのか？」と誰も聞かず、当たり前のように寝てくれます。自分たちの生まれた時のエピソードを聞きたがり、よく出産物語を布団で聞かせています。とはいえ、お兄ちゃんもう5年生。そろそろ8時半にしようかなと思っています。伸ばしても8時半ですけどね。

ささいなルールにも、おうちの方の信条が込められていますね。  
それぞれの家族が大切にすること。  
みなさんの家庭のルールの裏には、どんな思いがありますか？



# 天国の家族へ

今でも心の中に生きている大切な人。  
御先祖様への畏敬の念。  
今はなき、天国の家族に関わるエピソードです。



## 御先祖様に御挨拶（曾我小学校保護者）

3年前、祖父が亡くなったのをきっかけに、保育園に行く前に実家に寄って仏壇に手を合わせ、お茶を供え、お線香をあげることが日課になりました。どうしてもばたばたしがちで、わずかな時間でも貴重な朝ですが、子どもと一緒にご先祖様に「行ってきます」を言う時間を作ることで、自分自身も焦りがちな気持ちをリセットできます。子どもたちはおばあちゃんの家へ寄れることを単純に喜んでいるだけかもしれませんが、核家族でこのような習慣が身に付きにくい現代、実家が近くにあること、御先祖様が近くで見守ってくださることに感謝し、なるべく長く続けていきたいと思う我が家の日課です。

## 今日もいいこと、ありますように・・・（曾我小学校保護者）

祖父母と同居して7年、その間に、じいじ（祖父）とばあば（曾祖母）がお星さまになりました。息子は手先の器用だったじいじの真似をして釘を打ったり、木を切ったりして、いつも一緒に遊んでいました。ばあばは、小学校から帰ってくる息子を毎日リビングで待ち、いろいろな話をして楽しんでいました。そんな2人を偲んで、毎朝家族で登校、出勤前に仏壇に手を合わせていました。

最近は息子一人でも拜んでいる姿が・・・。「何を言ってるの？」と聞くと「行ってきます！今日もいいことありますように！って言ってるんだよ。」と息子。仏壇に向かってお願いするなんてちょっと・・・と笑ってしまいますが、空から毎日見守ってくれていると思っています。

家族を思うやさしい気持ちをこれからも育てていきたいと思っています。



## ずっとおじいちゃんと一緒に（中小学校保護者）

私の息子には生まれた時からおじいちゃんがいません。おじいちゃんは息子が生まれる5ヶ月前に亡くなったからです。息子は小さい時は、おじいちゃんの話をするだけでよく泣いていました。息子はおじいちゃんと会話できないので、私がおじいちゃんのことをいろいろ話してあげました。おじいちゃんは少年野球を作り、その監督をやってたんだよとか、警察犬が大好きで何匹も飼ってたんだよなど、いろいろ話すうちにおじいちゃんのことわかったみたいで、安心したようです。

これからもずっとおじいちゃんのことを息子に話していきたいと思います。これからもずっとおじいちゃんと一緒にいられますように。

今ある命は御先祖様から受けつがれてきた命です。  
もう直接会うことも話しをすることはできません。  
だけど心の中にしっかりと生きています。  
家族を思う優しい気持ちも受けつがれていますね。



© Iwao\*

# 家族の大切な場所

家族が大切にしている場所。  
心が安まり鋭気を養う心地のよい特別な場所。  
そんな憩いの場に関わるエピソードです。



## 「大切な場所」(千浜小学校保護者)

私は3人の子どもを持つ母親です。子どもは、小6の長女、小3の長男、年中の次女です。毎日、バタバタで忙しい日々ですが、我が家のリビングダイニングルームは、家族全員での食事や団欒の一時を過ごす場となっています。もちろん子どもたちが宿題をする場所であったり、子どもたちの友達が来て遊ぶ場所であったりしています。

3人兄弟なので、年の違う友達がたくさん集まります。みんなで一緒に遊んだり、小さな子の面倒をみたり、年の下の子は年上の子と遊んでいろいろ学んだりしています。

私も子どもたちと交流ができて成長も感じられるので、我が家のリビングダイニングルームはとても大切に、特別な場所です。



## 我が家の美術館(城東中学校保護者)

我が家の自慢は、とても素晴らしい美術館があることです。そこにはピカソやゴッホにも負けない名作が並んでいます。といっても場所はトイレであり、作者は3人の子どもたちです。美術品としては「飼っていた犬の版画」や「お父さんへの感謝の手紙」など、50点ぐらいが所狭しと貼られているのです。

しかし展示には厳しいルールがあります。まずは作った時の苦労話、先生からのコメント、友達の意見などを家族の前で発表をします。その発表を聞くと、学校の様子がすぐにわかります。

この美術館が始まって15年が経ちました。子どもの成長が手に取るように分かり、「あの時はこうだったね。」と会話が広がります。これからもずっと美術館は続いていきます。

## 宿題をやる場所（原野谷中学校保護者）

我が家の子どもたちは、リビングで宿題をやります。

お父さんが仕事から帰ってきても、子どもたちがテーブルを占領しているので、「お父さんの場所が無い!!」とお父さんは毎日文句を言っています。そう言われても、絶対に自分の部屋の勉強机で宿題をやらない子どもたち。

「なんで勉強机でやらないの?」と聞くと、「汚くて勉強ができない。」と…。

勉強机を少し片付けたのですが、未だにリビング生活が続ける子どもたち。理由を聞くと、「自分の部屋では静かすぎて宿題が進まない。」と言っていました。「寂しいの?」と聞いても、決して寂しいとは言いません。

なので、今でもリビングで宿題をする子どもたちと、お父さんの新聞を広げる場所の攻防戦は続いています。ある意味コミュニケーションかな?この戦いも、あと数年で終わってしまうのは、少し寂しい気もします。

憩いの場となる特別な場所。

そこには家族の関わりやぬくもりがあふれています。

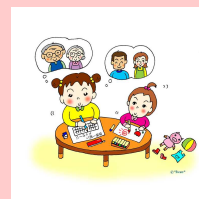
まさしく「お茶の間」ですね!!



© I w a o

## 「感謝」することを通して

「ありがとう。」という感謝の言葉。  
言う方も言われる方もなんだかほっこりします。  
そんな「感謝」に関わるエピソードです。



### 「ごめんなさい」より「ありがとう」(東中学校保護者)

人に言われないとやらない。家族でもそういうことがよくある。我が家ではそんな時、「やらなくてごめんなさい。」とならないように意識する。そうではなくて、「やってくれてありがとう。」と言うようにする。その方がやった方も嬉しくなって気分がよくなるからだ。そして「ありがとう。」と言うことで、自分も言われるようになれるようこころがけるようになる。

### ケガから学んだこと(大浜中学校生徒)

中学校3年生春。新クラス、新入部員、中学校生活最後の行事、受験…不安と期待を胸にスタート。

思春期独特な環境や感情に押されグチや悩みを聞く事が多くなったそんな時にケガ…(あーこんな時に、学校行事に参加出来ないし、部活も出来ないし、通院で遅刻だらけ…最悪…)と思いました。

ですが、不便な生活をする事で先生や友達や部員からの優しい気持ちを沢山いただきました。声掛けしてもらったり、荷物を持ってもらったり、戸を開けてもらったり、イスを準備してもらったり、小さな事でも日々感謝の気持ちでいっぱいです。皆さんにご迷惑お掛けしましたが、

ケガをして学んだ事。それは本当は、『人にとって一番大切なこと』でした。これからは恩返しする番です！皆さんありがとうございました！



## 子育てに最適な環境…掛川市に感謝！！（西中学校保護者）

おかげ様で、長男が大学1年、長女が中学3年生となり、子どもたちの成長が眩しい今日この頃。子育て（子育て？）に関する悩みや大変さは年々変わるとよく聞きましたが、本当にその通りです。子どもたちが3歳になるまでは、毎日、曜日に関係なく子育てに没頭し、『手がかかる時代』でした。

今、その時代が過ぎ去ってしまい、懐かしく、又微笑ましい思い出がいっぱいです。振り返ってみると、晴れの日には必ず自転車に子供達を乗せて（前かごと後ろかご）掛川市内のいくつかのポイントを回って遊ばせていた事が一番印象的です。“風”を直接頬に受けて、風景を見ることは最高のようでした。お弁当持ちで1日の大半を外で過ごしました。徳育保健センターの庭、学習センターの緑のドーム、掛川城付近、逆川沿いの小道、某おでん屋さん、花鳥園（16時を過ぎるとエサやりがタダ！！）、掛川駅（新幹線を見る、アイスクリームを食べる）、檀家でお世話になっているお寺さんでもよく遊ばせてもらいました。“子育て”がきっかけで地域の人達との関わり合いも増えて、私自身の世界も広がりました。子供を育てる環境としても掛川市は最高に良い場所だと思います。

親子共々、『掛川市』に感謝！！です。

人に助けられて感謝する。  
そこから学び、成長をする。  
そしてそれを今度は人に返していく。  
「感謝」の循環がほっこりを広げていますね。



## おわりに ～学力向上に向けて～

家庭での温かな関わりが、子どもの成長の大きな支えとなっています。これは学力にも影響を与えます。学力の視点からも考えてみてください。

### 「学力の高い子掛川 10 の法則」

「平成31年度全国学力・学習状況調査」において、「児童生徒質問紙」と「学力」の相関関係を分析すると、次のような子どもが国語や算数・数学、理科、英語の平均正答率が高い傾向にあります。

- ① 話し合う活動を通じて、考えを深めたり広げたりすることができる。
- ② 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいる。
- ③ 毎日、同じくらいの時刻に起きている／寝ている。
- ④ 家の人と学校での出来事を話す。
- ⑤ 地域の行事に参加している。
- ⑥ 家で自分で計画を立てて勉強している。
- ⑦ 読書を1日10分以上している。
- ⑧ 人の役に立つ人間になりたいと思う。
- ⑨ 学校の規則を守っている。
- ⑩ いじめはどんな理由があってもいけないことだと思っている。



### 家庭での実践を！！

各家庭において、子どもの生活習慣や学習習慣をよりよいものにする「家庭実践項目」です。是非実践してみてください。

#### 【家庭実践項目】

- ① お茶の間に家族と団らんしましょう。
- ② 生活のリズムを整えましょう。
- ③ 学習習慣を身に付けましょう。
- ④ 約束やきまりを守って生活しましょう。
- ⑤ 本や新聞等を読む時間を増やしましょう。

